

令和6年度 まちの保健室委員会 活動報告

■委員名	委員長：小林さおり 副委員長：山田 愛 委員：福田和美・青山りか・数原法子・藤井秀子・児嶋朱美・小西みゆき 藤原真希・金川昌代・西原沙織・大迫しのぶ・永井桂子												
■開催回数	6回												
■活動目標	1. 県民の視点に立ち、日常に基づいた「まちの保健室」活動を継続する。 2. 地域課題の多様化に伴い、支部ごとに特徴的な活動を創出し、受診勧奨・健康寿命の延伸に貢献する。 3. 社会状況や地域に応じた、健康相談等の方法を模索し、活動につなげる。												
■活動内容	1. 県民の視点に立ち、日常生活支援に基づいた「まちの保健室」活動を継続する。 1) 地域住民への健康問題について指導内容の統一を図るため、今年度対応用にリーフレットを選定し活用を推進し、相談者の支援を行った。 2) 拠点リーダーとボランティアの育成支援を行うため、研修会の開催を令和7年1月25日に①「まちの保健室の歴史とこれからの課題」②「フレイル・介護予防におけるまちの保健室相談の視点、ポイント」③「地域住民への減災対策の支援」をテーマに企画し実施した。 3) 拠点の見直しを行うため地区理事に調査票を元に、コーディネーターと協同調整の依頼を行った。又、施設代表者や、ボランティアにまち保活動における現状調査アンケートを行い課題を明確にあげていくように調査した。 4) まちの保健室拠点活動実績（令和5年6年度比較） <table><tr><td></td><td>拠点活動件数</td><td>活動ボランティア数</td><td>来所者数</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>355件</td><td>678人</td><td>3,041人</td></tr><tr><td>令和6年度</td><td>433件</td><td>905人</td><td>4,264人</td></tr></table>		拠点活動件数	活動ボランティア数	来所者数	令和5年度	355件	678人	3,041人	令和6年度	433件	905人	4,264人
	拠点活動件数	活動ボランティア数	来所者数										
令和5年度	355件	678人	3,041人										
令和6年度	433件	905人	4,264人										
	2. 地域課題の多様化に伴い、支部ごとに特徴的な活動を創出し、受診勧奨・健康寿命の延伸を図る。 1) 住民自ら健康と予防につながる活動が行えるための支援を行っていくため、計測機器のあり方を検討し、相談機能の充実を図るようフレイル・認知症チェック表を用い健康相談に繋げた。またチェック表を集計した結果から地域の特性や課題が明らかとなり、特性に応じた活動に取り組んだ。 2) ボランティアの活動の導入としてまち保の成り立ちや相談業務をメインとした活動の実際等の内容のDVDを作成し、まち保の委員会やコーディネーター会で周知しボランティア活動を支援した。 3) 健康長寿の最大の阻害要因となる生活習慣病対策として、成人病予備軍における生活改善指導を活動の中で行った。 4) ピンクリボン推進運動として、乳がん自己検診推進等女性の健康に関することや受診勧奨に関わるリーフレットの活用を行った。 5) 子育ての孤立を防ぎ、気軽に相談ができる場として拠点、出前隊の定期的な開催を行い、不安や育児に関する事、母親の健康状態も含め支援活動を行った。												

	6) 拠点の活動状況を明らかにし整備を勧めている。ホームページの全支部拠点一覧表を掲載し、地域住民が利用するにあたって利用しやすいように検討している。 3. コロナ等感染症対応として、基本的な感染防止対策は現在も行い活動を行っている。
■活動の評価	・活動の実績の評価として前年度より、活動数や利用者数の増加は見られており今後も活動の継続と活性化を推進していく。 ・フレイルチェック表やリーフレットの活用等を行い、相談業務の充実を図る推奨を行い利用者からも好評であった為、継続する。
■今後の課題	・まち保アンケート結果はボランティアの確保や活動場所の課題等があり、今後も支部理事、コーディネーター、まち保委員と解決に向けて協議していく。 ・活動の実績の評価として前年度より、活動数や利用者数の増加は見られているがコロナ以前よりは実績数は少ない。拠点の再開についての働きかけや出前隊活動の普及については現在も行っているが、更に実績数を上昇させることは今後の課題である。